

特集

地域おこし協力隊って何してるの



地域おこし協力隊とは・・・

「地域おこし協力隊」とは、人口減少や高齢化などの進行が著しい地方において都市部の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その地域に定住・定着を図ることで地域力の向上を目指す国の取り組みです。

具体的には、地方自治体が首都圏などの都市住民を受け入れ、地域おこし協力隊員として委嘱、おおむね1年以上3年以下の期間、地域で生活しながら、さまざまな活動に従事しています。

市では、地域の皆さんとともに地域活性化を目指して活動してもらうために、平成27年度から地域おこし協力隊を導入しています。

本号では、隊員の皆さんのミッションや協力隊になった理由などをご紹介します。

炭に魅せられた山男



担当地域：高根集落
氏名：高橋 洋
前住所地：東京都
経験年数：2年目

Q1 高根集落の所有林の資産活用（わさび栽培と炭焼き）

- Q2 さまざまな資源があふれる高根集落で生活しながら、自分の仕事を見つけるため。
- Q3 豊かな自然の中で、心も豊かになって生きることが出来るから。
- Q4 お年寄りの方言が、今でも何を言っているのか全くわからない。
- Q5 村上で地に足をつけて生きていくこと。

活動の様子は
こちらから↓



炭焼き小屋の様子

お蚕様に恋する乙女



担当地域：檜原集落
(朝日村まゆの会)
氏名：細井 幹子
前住所地：東京都
経験年数：3年目

- Q1 養蚕やまゆの花作りの技術継承。
- Q2 まゆの花の美しさに引かれ、まゆの花に関する活動に少しでも関わりたいと思った。
- Q3 まゆの花に呼ばれたから。
- Q4 家に住みついていたハクビシンには困りましたが、それ以外は大きな困りごとはありません。雪も私にとっては新鮮で楽しいです。
- Q5 まゆの花の美しさを世界の人に向けて発信していきたい。

活動の様子は
こちらから↓



まゆクラフト講座の様子

走って泳げるツアーコーディネーター

担当地域：市内全域
氏名：植田 徹
前住所地：東京都
経験年数：2年目



- Q1 グリーン・ツーリズムを通じた村上市への観光客誘致、市外・県外にて村上市のPRイベントを運営。
- Q2 生活面などのサポートをいただきながら、新しい土地で新たなチャレンジができるため。
- Q3 「村上・笹川流れ国際トライアスロン」のコースで走ったり泳いだり、自転車に乗ったりできるから。
- Q4 電車通勤からクルマ通勤になったこと。特に視界が真っ白になる雪の日の運転は恐ろしい。
- Q5 都会や海外の観光客を対象とした体験型ツアーを企画して、地域の魅力を多くの人に知ってもらうこと。



▲市のPRのため、JR新潟駅構内ではさがけの展示作業

活動の様子は
こちらから↓



みんなが住みよい山北を描く

担当地域：山北地区
氏名：川村 悠樹
前住所地：神奈川県
経験年数：3年目



- Q1 山北地区に暮らす高齢者の買い物支援。
- Q2 住民の一人として地域活性化に関わりつつ、田舎での仕事や日常生活を楽しみたかったから。
- Q3 父方の祖父母が村上で暮らしていて馴染みがあった。大学生の頃、ゼミの実習で山北地区を訪れ地域のファンになり、将来は山北で暮らしたいと考えるようになったから。
- Q4 毎晩のように家に虫が入ってくる。今は慣れたが、移住1年目はちょっと辛かった。
- Q5 協力隊の任期後も山北で暮らすために、自分らしく働くための方法を検討する。



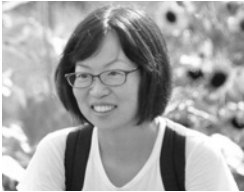
▲地域の皆さんと一緒に買い物ツアー

活動の様子は
こちらから↓



Q1 ミッションの内容は？ Q2 協力隊員になったきっかけは？ Q3 「村上」を選んだ理由は？
Q4 村上に来てみてギャップや困ったことは？ Q5 これからの目標は？

山北のよさを世界に！



担当地域：小俣集落
氏名：高橋 千絵
前住所地：新潟県
経験年数：2年目

Q1 日本国ネイチャーガイド、小俣地区活性化。

- Q2 ミッションの内容に興味を持ち、協力隊員になりました。
- Q3 山北地区に引かれたから。
- Q4 実家は村上に近く、言葉には全く困らないと思っていましたが、最初地元の方の言葉がわからなかったことです。今はこちらの人のようだとされています（笑）。
- Q5 小俣・山北の魅力を国内だけでなく、海外の方にも発信していきたい。観光地化された観光地ではなく、山北の本当の良さをわかってくれる方たちが訪れてくれたらと思っています。



▲小俣宿まちなみ看板修繕中

活動の様子は
こちらから→



ムラカミの隅から隅まで回っています



担当地域：市内全域
氏名：臥牛山 朝猛
前住所地：東京都
経験年数：2年目

Q1 関係人口の拡大。「村上おもしろい」と言ってもらえるように活動しています。

- Q2 鋸山部屋に所属していた力士時代に、地元の村上から応援してくれた皆さんへ、何か恩返しがあればと思い応募しました。
- Q3 生まれ育った故郷（ふるさと）だったから。
- Q4 地域によって考えていることに差があったり、行事やイベントごとが多いと思います。
- Q5 市外からの関係人口創出だけでなく、市内の中でも関係人口を拡大していくための橋渡しをしたいと思います。



▲地域のイベントでちゃんこ鍋のふるまい

活動の様子は
こちらから→



目指すぞ！しな織りマイスター

担当地域：山北地区
氏名：新山 美織
前住所地：埼玉県
経験年数：1年目



- Q1 羽越しな布の技術継承。
- Q2 伝統工芸に携わる仕事がしたいと思い探していたところ、しな布の技術継承という協力隊の募集があったので応募しました。
- Q3 村上市で募集していた地域おこし協力隊の業務内容が伝統工芸の仕事だったから。
- Q4 山北の方言がまだ分からない。
- Q5 しな布の技術習得。



▲自ら紡いだしな糸でしな織り中

活動の様子は
こちらから↓



高根に溶け込む猫娘

担当地域：高根集落
氏名：栗原 成美
前住所地：群馬県
経験年数：2年目



- Q1 高根の景色や風習、日常の撮影、記録、編集、情報発信。集落内の人々が楽しめるイベントの開催など行っています。
- Q2 地域づくりの仕事をしたかったから。
- Q3 学生の頃から高根が好きで通っていました。社会人になり転職を考えた時にご縁がありました。
- Q4 学生時代を知っている人から子ども扱いされること。うれしいこともあるけど、仕事の時は困るな。
- Q5 高根でマルシェを開催する事。



▲ドローンで集落を撮影中

活動の様子は
こちらから↓



Q1 ミッションの内容は？ Q2 協力隊員になったきっかけは？ Q3 「村上」を選んだ理由は？
Q4 村上に来てみてギャップや困ったことは？ Q5 これからの目標は？



地域の魅力を再発見

都市部から村上市に移住して、それぞれの地域で与えられたミッションを基に活動をしている地域おこし協力隊。

村上市では、現在8人の地域おこし協力隊員が活動しています。

市外から移住してきた「ヨソモノ目線」で、今まで気づけなかった魅力や宝物の発見、それぞれのもつ才能や能力を地域活性化に生かしながら、日々活動をしています。

●問い合わせ

自治振興課自治振興室

☎53・21111

(内線5111)

— 地域おこし協力隊OBから —

高橋 ^{なおと} 直人 (大須戸集落)

○活動期間

平成28年4月1日～
平成31年3月31日

大滝 ^{しゅんこ} 順子 (山熊田集落)

○活動期間

平成27年4月1日～
平成30年3月31日



地域おこし協力隊を卒業して約半年がたちました。すっかり大須戸集落の生活にも慣れ、やりたかった活動にも着手し始めることができ、食品加工場もようやく完成しました。これから加工食品の開発やお弁当などの提供も本格的に始動していきたいと考えています。

また、「農家民宿ひどこ」の運営を任せられ、宿泊業務や食事、宴会なども承っております。今後はさらに「人」にピックアップした宿として新しい体験コースなども思案中です。

イベント制作や楽曲制作、ライブ出演などのご相談もお受けしますので、お気軽にご連絡ください。(☎73-0108)

現在の様子は
こちらから→



「地域おこし協力隊」という名称は、いろいろな誤解を引き寄せてしまいがちだと、私は感じてきました。この事業の本当の意味での成功とは、隊員が任期後もそこで暮らしていけることだと思います。そのためには、地域の皆さんとの信頼関係や経済的土台を作ることが必須です。

地域の皆さんと調和し、あるいは地域に今までなかった価値観や才能を活かし、おもしろい人生が実現できそうなら、それは無限におもしろい地域になれる可能性そのものです。

地域側になれた私は、隊員たちがそうあれよう応援したいです。

現在の様子は
こちらから→

